

農林水産委員会

本県農産物の認知度向上策は「茨城の顔」の重点的なPRで

問 平成十五年度に始まった茨城農業改革は、今年度で前期が終了する。これまでの評価と今後の取り組みを伺う。

答 意識改革の面では、活発に活動している農業者集団もあるが、まだ表面だけのところもある。そのような状況も踏まえ、現在、後期四年間の年次別計画を作成しているところである。

問 麦について始まった品目横断的経営安定対策の状況と今後の取り組みを伺う。

答 これまでに、作付予定面積のうち97%がナラシ対策(収入減少影響緩和対策)に加入した。今後は、集落営農組織が安定した経営をできるよう支援していく。

問 首都圏の消費者は、本県農産物についての認知度が低いようだ。各種観光イベントなども活用してPRしてはどうか。

答 メロン・コシヒカリ・常陸牛を「茨城の顔」として重点的にPRし、本県農産物のイメージアップを進めている。水戸の梅



本県農産物のPR風景

祭りの期間中には、大手スーパーの茨城フェアにおいて、梅大の協力などを得てPRに努めているところである。

問 霞ヶ浦・北浦で発生したコイヘルペスウイルス(KHV)病の対策事業の進捗を伺う。

答 KHV病耐性コイの作出では、予備試験において成果が得られ、現在本格試験を行っている。コイ加工品の県外への試験出荷では、加熱後に冷蔵したコイが評価を得られたので、今後再度試験出荷を行う。

(ほかに、新規就農者や定年帰農者に対する就業支援、遊休農地対策、農業関係研究職員の処遇改善なども質問)

土木委員会

凍結中団地の販売目標クリアは平成二十年度以降大きく処分

問 入札で、市場性を重視すると反面、耐震性の問題も出る。安全安心な構築物ができる限度という基本をしっかりと掴むことが必要と考えるが

答 公共工事は安いだけではなく、適正な価格で良質なものをつくるバランスが大事。最低制限価格制度や低入札調査制度を導入しダンピング対策をしており、適切な施工が確保できないと想定される場合は失格としている。

問 指定管理者のチェック機関として、福井県では外部の者で構成する委員会を設置しているが、本県はどう対応するのか。

答 効果的運用がされているかどうかの評価については行政内部で実施する。指定管理者の管理が適当でない場合は見直しも視野に入れている。

問 県住宅供給公社所有の凍結中団地の販売目標をどうクリアしていくのか。

答 平成二十年度以降、特に大きく処分していく計画である。昨年十月から二か月間、北条、西十三奉行、プロヴァンス笠間



国道6号日立バイパスの整備状況

の三団地の公募を行った。結果は条件面で折り合いがつかず採用を見送ったが、その後も問い合わせが続いており、公募条件の見直しなどを調整中である。

問 国道六号日立バイパスの旭町アクセス以南の整備計画は平成十九年度に決定できるのか。

答 現在、具体的な整備手法や日立市内の都市計画道路全般の見直しを検討している。都市計画変更の必要性の結論が出されれば、地元への説明を実施することになると考えている。

(ほかに、筑西幹線道路の整備方針と完成見通し、緒川ダム中止関連対策事業の進捗状況なども質問)

文教治安委員会

県立高校の教員配置の偏りは人事異動の新ルールを平成二十年度から実施

問 平成十九年度から実施される放課後子ども教室の三百か所の目標に対し、予定数がかなり少ないが課題は何か。

答 指導者の確保などが課題となっており、退職教員に対して本事業への協力に関するアンケートを実施するなどし、協力者のリストを市町村に提供していきたい。

問 進学校と生徒指導困難校で正規教員と講師の比率に大きな差があるなど県立高校の教員配置に偏りが見られるが、生徒指導困難校にはベテラン教員を配置すべきではないか。

答 教員の配置に偏りがあるのは事実なので、これを解消できるように、一校の在籍年数の短縮や進学校間の異動の制限などの人事異動の新ルールを策定し、平成二十年度から実施する。

問 半鐘などの金属盗難事件の現状と対策を伺う。

答 三月十一日現在で百七十一件発生し、被害総額は約三千九百万円となっている。対策としては、買い取り業者に対する立入検査や全警察署対象にブロック会議を



放課後にボランティアと一緒に遊ぶ子どもたち

開き情報交換を行うなど、検挙に向け活動している。

問 警察署再編整備計画の策定にあたっての警察本部長の考え方を伺う。

答 将来を見据えてしっかりとした警察基盤を整備し、県民の方に少しでも安全、安心を感じていただけるような計画を作っていきたいと考えている。

(ほかに、団塊世代の警察官の大量退職に伴う警察力維持対策、いばらき版デュアルシステムの今後の取り組みなども質問)

なお、今回、教育委員会及び公安委員会の各委員長の出席のもと活発な質疑が行われました。